

令和七年度「みすゞ児童作品コンクール」
課題詩

○は「金子みすゞ読本」掲載詩
出典：『金子みすゞ童謡全集』より

まつりのころ ○

くるま
山車の小屋がたちました、
はま
浜にも、氷屋できました。
せど もも
お背戸の桃があくなり、
はすだ
蓮田のかえろもうれしそう。
しけん
試験もきのうですみました、
うすいりボンも買いました。
もうお祭りがくるばかり、
もうお祭りがくるばかり。

「みすゞ読本P41」

美しい町

ふと思ひ出す、あの町の、
川のほとりの赤い屋根。
そうして、青い大川の
水のうえには白い帆が、
静かに、静かに、動いてた。
そうして、川岸の草のうえ、
わか えか おじ
若い絵描きの小父さんが、
ばんやり水をみつめてた。
わたし
そうして、私は何してた。
おもい出せぬとおもったら、
それは誰かに借りていた、
ごほん さしえ
御本の挿絵でありました。

だるまおくり ○

白勝った、
白勝った。
そろって手をあげ
「ばんざあい」
赤組のほう見て
「ばんざあい」
だまつてる
赤組よ、
秋のお昼の
日の光り、
土によごれて、ころがって、
赤いだるまが照られてる。
も一つと
先生がいうので
「ばんざあい。」
すこし小声になりました。

「みすゞ読本P42」

風

空の山羊追ひ
眼にみえぬ。
ひろの
曠野のはてを
群れてゆく。
空の山羊追ひ
眼にみえぬ。
そ
山羊が夕日に
染まるころ、
とおくで笛を
ならしてる。

みんなをすきに ○

わたし す
私は好きになりたいな、
何でもかんでもみいんな。
ねぎ
葱も、トマトも、おさかなも、
のこ
残らず好きになりたいな。
うちのおかずは、みいんな、
母さまがおつくりになったもの。
私は好きになりたいな、
だれでもかれでもみいんな。
からす
お医者さんでも、鳥でも、
残らず好きになりたいな。
世界のものはみいんな、
神さまがおつくりになったもの。

「みすゞ読本P72」

ねんねの汽車

ねんねん寝る子は汽車に乗る、
ねんねの駅を汽車は出る。

汽車の通るは夢のくに、
なんきん玉の地の上の、
せんろ
赤い線路をひた走り。

月は明るし、雲は紅、
がらす どう
硝子の塔のてっぺんに、
ちらりと白い星も出る。

みんなお窓に見て過ぎて、
おめざの駅へ汽車は着く。

みやげ
お夢のくにのお土産は、
だれ
誰も持つては帰れない。
お夢のくにへゆくみちは、
ねんねの汽車が知るばかり。